

## 2017年10月実績概要（メモ）

（2017.11.16）

エチレン製造装置の稼働率が更に上昇、誘導品の生産も多くが前年越え。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 546,000トン

前月比 +2.2% (+11,500トン)

前年同月比 +5.1% (+26,600トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比>   | <前年同月比> |
|------------|---------|---------|
| 日数増減       | + 3.3 % | -       |
| 定修要因等      | ▲ 3.7 % | + 2.2 % |
| 能力増減       | -       | -       |
| 稼働率変動      | + 2.6 % | + 2.9 % |
| 生産増減率      | + 2.2 % | + 5.1 % |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.5%→当月97.8%←前年同月95.2%

定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月2社2プラント

本年1～10月の累計生産量 5,392.3千トン、前年同期比+4.9%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増とともに定修規模差や稼働率要因から、LD、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、ANなどの8品目がプラス。HD、PP、PS、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの9品目はマイナスとなった。

前年比では、主として稼働率要因や定修規模差からLD、HD、SM、塩ビモノマー、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの13品目がプラス。PP、PSなどの4品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、LDは日数の増加に加えて定修系列数の減少からプラスとなった。HD、PPは主に稼働率要因、PSは定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、HDでプラス、PP、PSはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、営業日数の増加とともにフィルム分野や包装分野等での引き合いが強まり、LD、HD、PSでプラスとなった。PPは前月の出荷がやや前倒し気味の傾向もあり当月はマイナスとなった。

前年比では、LDではフィルム分野、PSでは電機・工業用やFS分野での出荷が増加しプラス、PPはほぼ前年並みの出荷となった。HDは中空成形やパイプ分野等の出荷が減少しマイナスとなった。

ハ) 輸出

引き続き国内向けの出荷が中心となっており、輸出は絞られている。前月比ではHD、PPで若干のプラスとなったが、LDでは大幅なマイナスとなった。前年比ではLD、HD、PPともにマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、HDで若干の増加、LD、PP、PSでは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDは上昇、HD、PP、PSは低下した。在庫水準としてはLDは適正からやや高め、HD、PP、PSはほぼ適正水準の範囲となっている。

|    | 前月対比増減量<br>(単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) |      |
|----|--------------------|------------------|------|
|    |                    | 9月末              | 10月末 |
| LD | ▲ 3,100            | 3.0              | 3.2  |
| HD | + 6,200            | 2.8              | 2.7  |
| PP | ▲ 11,200           | 2.7              | 2.6  |
| PS | ▲ 400              | 1.6              | 1.5  |